

JICA筑波

持続可能な方法学ぶ

農業機械利用研修を実施

6月21日に開発途上国 ICA筑波、茨城県つくば市）では、今年5月13日の研修員へ日本の企業・団体の農業技術・製品を日5月5日「持続可能な農業機械利用（SAM）」を紹介する「農業共創セミナー」を開催した（本紙U）の研修を行った。

7月2日号既報）国際協力機構筑波センター（J力機構筑波センター）の革命のための同盟（AARD本会合）（201A）を政策立案・行政

実際イニシアティブ「アフリカ稲作振興のための共同5カ国で行われていトジボワール（1）、エチオピア（1）、ケニア（3）、ザンビア（2）の5カ国計8名が参加。

JICAはアフリカ緑フェーズ2が「第7回C業機械化促進（PAM農機メーカーや研究機関

（201A）を政策立案・行政だけでなく、松山訪問時



農家に訪問して聞き取りも行った

（GRA）と8年10月）において合意官を対象として、農業機械には同社製のウイングハ
共に、2008年5月 コメ生産量をさらなる倍 必要の知見を習得する 藤元紀氏）を訪問して持
にサブサハ 増（2800万tから5 ことを目的に実施。他方、 続可能な農業機械利用や
ラアフリカ 600万t）を目標に、 アフリカにおける農業機械 維持管理の取り組みの聞
のコメ生産 “売れる品質のコメ” 生産 機械化の促進には、政策に き取りを行ったほか、研
量を10年間 産に向け、コメの産業化 基つき現場レベルで限ら 修センターでも農機の構
で倍増（1 促進にも着目した「RI れたリソース（農業資機 造・保守点検や機械化体
400万t CEアプローチ」による 材、人員など）を有効活 系などを学ぶなど実践的
から280 支援が実施されている。 用し、持続的な機械利用 なプログラムが行われ
0万t）す RICEアプローチで を指導できる人材の育成 た。同研修は今年から開
ることを目 は「民間セクターと協調 もまた必要不可欠である 始し、再来年まで3年間
標とした国 した地場の産業形成」を ことが取り組みの中で明 の予定で実施していく。

標とした国 した地場の産業形成」を、ことが取り組みの中で明の予定で実施していく。